

「新海洋混合学」国際活動支援成果報告書（2019年度分）

2019年7月30日

計画班名：総括班

申請者氏名・所属・職名：安田一郎・大気海洋研・教授、西岡純・北大低温研・准教授

申請者連絡先 電話・メール：内 6040 ichiro@aori.u-tokyo.ac.jp

011-706-7655 nishioka@lowtem.hokudai.ac.jp

対象者氏名・所属・職名：同上

対象者連絡先 電話・メール：同上

相手先氏名・所属・職名：

- 1) Director A. Dunaev, Far Eastern Regional Hydrometeorological Research Institute
- 2) Y. Volkov, Far Eastern Regional Hydrometeorological Research Institute
- 3) A Scherbinin, Far Eastern Regional Hydrometeorological Research Institute
- 4) S. Yarosh, Far Eastern Regional Hydrometeorological Research Institute

相手先連絡先 住所・電話・メール：

Far Eastern Regional Hydrometeorological Research Institute (FERHRI)
24 Fontannaya St., Vladivostok, 690091, RUSSIA
Phone: +7-4232-43-40-88; Fax: +7-4232-43-40-54 or +7-4232-40-49-83
E-mail: hydromet@mail.ru

申請項目（複数可、数字を記入）：3、4、7

1. 国際共同航海の調整, 2. 拠点形成に関わる派遣・招聘, 3. 国際共同研究関連, 4. 研究者派遣, 5. 海外研究者招聘, 6. 研究技術研修, 7. 研究動向調査, 8. その他（ ）

申請課題名：2018年実施ロシア船航海のデータ公表に関する打ち合わせ

成果報告要旨：

2018年7-9月にOMIXのプロジェクトの一環としてロシア極東海洋気象学研究所（Far Eastern Regional Hydrometeorological Research Institute）との共同研究で実施した親潮域上流の西部ベーリング海航海のデータ取りまとめを行う。当初、ロシア極東海洋気象学研究所所長 A. Dunaev 氏、元所長 Y. Volkov 氏、航海コーディネータ A. Scherbinin 氏、S. Yarosh 氏を日本に招聘する予定であったが、先方の都合がつかず、実際は A02-3 班代表の西岡が、7月2日にロシア・ウラジオストックに出張しロシア極東海洋気象学研究所を訪問することで打ち合わせを実施した。

全体計画・計画研究・公募研究への寄与：

我が国が隣接している西部北太平洋は、生物生産が高く、世界でも有数の水産資源の豊富な海である。この豊かな恵みを生み出している背景には、オホーツク海やベーリング海との水塊交換と、親潮や黒潮を通じた栄養物質の循環が大きく関わっている。しかし、何故、西部北太平洋で豊かな生物活動が生み出されるのかは十分に理解されていない。OMIX ではロシア極東海洋気象学研究所と共同研究を進め、親潮上流域にあたるオホーツク海やベーリング海の物理・生物化学調査を実施している。我々は2018年7-9月に西部ベーリング海の調査を終えている。この航海のデータを取りまとめ公表していくためには、A. Dunaev, 所長はじめとするロシア極東海洋気象学研究所の関係者らとの打ち合わせを行い、データ公表の許可を得ることが必須となる。このため、7月2日に、ロシア極東海洋気象学研究所を訪問することで打ち合わせを実施した。その結果、10月頃までには本航海で取得したデータを使用するためのロシア政府からの許可が得られる見込みであることを確認した。

制度の改善点・感想等：

特になし

実際の日程：

2019年7月1日(月) ロシア 札幌発 ウラジオストック着
2019年7月2日(火) ロシア極東海洋気象学研究所を訪問
2019年7月3日 ウラジオストック発、札幌着

使用した予算内訳（旅費とその他の経費に分けて記述）：